4つの小学校のカヌークラブが、今年の活動を始めました。

平田市Ｂ＆Ｇ海洋センター（島根県）

5月末から6月にかけて、宍道湖にほど近い平田市の4つの小学校で、カヌークラブの活動が始まりました。これは、授業の必須科目になっているクラブ活動の時間を利用したもので、卓球やサッカーなど、さまざまなクラブの１つに選ばれています。

「平田市Ｂ＆Ｇ海洋センターは､体育館やプールを持たない1種艇庫なので、カヌーに力を入れないと利用者が増えません。そのため、学校のプールを使った出前カヌー教室や、教職員対象のカヌー講習会などを積極的に行いながらマリンスポーツへの理解を広めてきました」（海洋センター：曽田宏一さん）

その努力の結果、市内の小学校でカヌークラブが定着。今年で 9 年目を迎えるところもあるそうで、どの学校でもシーズンに入って月 1、2 回程度の活動が組まれています。

「クラブ活動は、基本的に海洋センターの職員が指導しますが、何年もやって慣れている学校の先生方もいて、お手伝いしていただいてます」

市内の高校にはカヌー同好会がありますが、そのなかには小学校時代にカヌークラブでカヌーを覚えた生徒も少なくありません。同好会とはいっても、昨年は全国大会へ出場するなど、実績は少しずつアップしています。

「久多美小学校では、昨年から総合的な学習の時間でもカヌーを利用するようになりました。昨年は、初年度ということで川に出てカヌーを体験することに重点を置きましたが､2年目になる今年はカヌーを手段に川辺のゴミ拾いや自然観察などを行う予定です。4年生からはじめて6年生まで3年の時間がありま

すから、1年ごとに内容をステップアップしていくように考えています」

　総合的な学習の時間にも取り入れられたカヌー。その内容を濃くするために、自らが勉強しなければならなくなったと、曽田さんはうれしい悲鳴をあげていました。